

動物病理学

		シラバス(概要)
履修条件	自律学習修了し理解度確認課題提出した者	動物看護に於いて、動物がどのような状況にあり、どのような看護が必要かは、発病のメカニズムと病理学的特徴を理解することから始まる。ついては、生理機能の障害からどのように病気が発生し、どのように変化し、どのように回復していくのか理解する。さらに、病変の特徴や分類、名称、病理学的検査方法などの病理学専門用語を用い学ぶ。一般的な正常と異常の違いは、加齢による組織変化や生理機能の違い、動物種による病変の違いなどを理解し、動物看護に活かす。これらのことを理解するために、病気の成り立ち、細胞の死滅、循環障害、退行性病変、進行性病変、炎症、先天異常、免疫異常、老齢性病変、腫瘍などの項目について学ぶ。3時間の受講の中では自律学習で習得した知識を十分に応用活用し、臨床の場で必要な動物看護及び疾病の予防に必要な知識を習得する。これらの知識は動物の看護のみならず飼い主への教育や、病を持つ動物を目の前にして悩みを抱く飼い主の迷いを解消できる動物看護師ならではの活躍に大いに活用できるものである。
ユニット	高位平準動物看護学	
科目名	動物病理学	
履修時間	ユニット30時間中3時間	
回数	10回中の1回	
授業形態	対面授業	評価方法
作成者		最終時間に理解度確認テストを実施し、60点以上を合格とする。 高位平準動物看護概論30時間受講後に、終了試験を実施し合格点取得した者に修了証を与える。
教科書	動物看護コアテキスト3 動物の疾病と予防および回復(ファームプレス)	
参考図書		

コマシラバス				
50分/コマ	コマのテーマ	項目	内容	教材・教具
1	自律学習の成果を基礎とした動物病理学の概要まとめ	1.シラバスとの関係	動物病理学を動物看護師が学ぶ意義が理解できる。	
		2.コマ主題	病理学概要について自律学習した内容を復習確認する。	
		3.コマ主題細目	病理学の全体概要と役割を知るために自律学習した内容の理解度確認テストの内容確認をしたうえで、詳細授業に進む。	
		4.コマ主題細目深度	臨床の場で獣医師と協働し、動物の疾病の予後及び予防を理解し現状の看護に活かすために必要な動物病理学を学ぶ基本を見直し、知識とすることができる。	
		5.次コマとの関係	多くみられる疾病における身体の変遷を知り、予防と看護に活かす。	
2	動物の疾病を理解し看護に活用するために必要な病理学の知識のまとめ	1.シラバスとの関係	動物の病気の発症の機序を知り、予防と看護に活かせる知識を習得する。	
		2.コマ主題	循環障害と炎症について知り、看護に活用できる知識の習得をする。	
		3.コマ主題細目	臨床の場で必要な、多くみられる疾病を理解するために必要な知識として循環障害と炎症についてまとめ、修得する。	
		4.コマ主題細目深度	1:循環障害①血液循環とリンパ液循環に関係する障害;水腫、充血とうっ血、出血と止血、その他の循環障害について。2:炎症①炎症の原因と主徴候 ②経過と治療 ③急性炎症と慢性炎症	
		5.次コマとの関係	近年多くみられ、来院症例としても多い免疫疾患、腫瘍について学ぶ。	
3	免疫異常に関係する疾病と腫瘍について知識のまとめ	1.シラバスとの関係	近年多くみられる疾病として免疫疾患、腫瘍について学ぶ。	
		2.コマ主題	免疫の基本とその異常によって発症する疾病を知り、また、腫瘍についてまとめの知識を習得する。	
		3.コマ主題細目	免疫とは何かを理解しそれに関係する疾病を知り、慢性化し長期化する可能性が大きい疾病として飼い主教育や看護の場に活用できる知識を習得する。高齢動物の増加に伴い、担がん動物が多くなった臨床の場に備えて腫瘍についてまとめた知識を習得し、罹患後生存期間の長くない動物に寄り添う飼い主教育にも活用できる知識の習得に努める。	
		4.コマ主題細目深度	腫瘍について。1:細胞の増殖分化とその異常、2:腫瘍の定義と分類、3:腫瘍の原因と発生メカニズム、4:腫瘍の転移と進行5:その他について学ぶ。	
		5.総まとめ	動物病理学受講の総まとめとして、理解度確認テストを実施する。	